

## 9.子ども食堂のレッテル ～マンナ MANNA 子ども食堂を通じて～

坂田 堇

本稿は子ども食堂にしばしばついてくるレッテルに焦点をあて、「マンナ MANNA 子ども食堂」への参加経験から現状を明らかにする。

### 1.始めたきっかけと母体

近年、子どもの貧困や生活困窮児童などが増えている現状の中で、地域の子どもたちに食事を提供し、地域の人たちとともに過ごせる場所としての「子ども食堂」が全国的な広がりをみせる中で、名古屋グレイスキリスト教会は地域に開かれた教会として、少しでも地域に用いられるために、地域コミュニティの交わりの場を提供し、「食」を支えあい、心身共に健康で安心安全な居場所づくりを目指して「マンナ MANNA 子ども食堂」が設立された。

【母体】名古屋グレイスキリスト教会

### 2.開催日時等・各回メニュー

毎月第3週又は第4週の水曜日 午後5:30～7:30 開催

4/19 煮込みハンバーグ・クラムチャウダー・サラダ・キウイ

5/24 麻婆豆腐・コーンスープ・杏仁豆腐

6/21 夏野菜のカレーライス・サラダ・ゼリー

8/23 夏祭りメニュー（やきそば・やきおにぎり・かき氷）

ヨーヨー釣りや折り紙など夏祭り仕様の遊ぶ場所があった。いつもは流れない音楽も夏祭りを連想させるようなものが流れた。

9/20 鮭ちらし寿司・鶏の甘辛煮・お吸い物・愛媛ポンジュース

この回は用意していた食事が全て売り切れてしまい、7時に来た親子に食事の提供ができなかった。

10/25 チキンライス・クラムチャウダー・サラダ

11/22 ビビンバ・わかめスープ・ヨーグルト

12/20 クリスマスメニュー（カレー・バナナ）

サンタさん〈杉崎さん〉が子どもたちにプレゼントを渡していた。代表の藤田さんとスタッフさんとでベルのクリスマスソングの演奏もあった。

食中毒などを抑えるため、調理するスタッフは手袋とマスクを着用することや2階のお手洗いを使用するなど徹底している。また、参加者の方も手洗いをしっかりと行ってからご飯を食べるようにしてもらっている。

次回の食事のメニューは次回の案内も載っているチラシに記載されている。管理栄養士の方が毎回メニューを考え、他のスタッフさんと一緒に作ってくれている。

### 3.参加人数

4/19 子ども 46 人・大人 44 人 【91 人】

5/24 子ども 33 人・大人 21 人・ボランティア 4 人・スタッフ 17 人 【75 人】

6/21 子ども 29 人・大人 39 人 【68 人】

8/23 子ども 53 人・大人 27 人・スタッフ 26 人 【106 人】

9/20 子ども 45 人・大人 18 人・スタッフと見学者 40 人 【103 人】

10/25 子ども 46 人・大人 22 人・ボランティア 25 人 【93 人】

11/22 子ども 46 人・大人 12 人・ボランティア 30 人 【88 人】

12/20 子ども 74 人・大人 35 人・スタッフ 25 人 【134 人】

4月に全体で91人参加者がいたが、5月、6月と参加者の人数が減少。8月に夏祭り仕様の子ども食堂を開催し、初めて参加者が100名を超えた。また、8月は名古屋市長も視察に来られた。9月は見学者の方が多く、この回も100名越え。最後のほうは食事が足りなくなる状況。10月は開催時刻と同時に参加者の方が多く来られて席に座れるかどうかギリギリの様子だった。先月の食事が足りないということを踏まえ、Facebookで事前に「数によっては足りなくなってしまうかもしれません」という情報を拡散。しかし、11月は10月の参加人数を下回った。人数の把握がしっかりとつかめないことが課題だ。12月はクリスマス間近ということもあり、いつも参加している子どもたちが友達を連れてきてくれて子どもの参加者が74名。クリスマス仕様でベルの演奏やサンタさんからのプレゼントがあり、いつもより子どもたちも楽しそうだった。

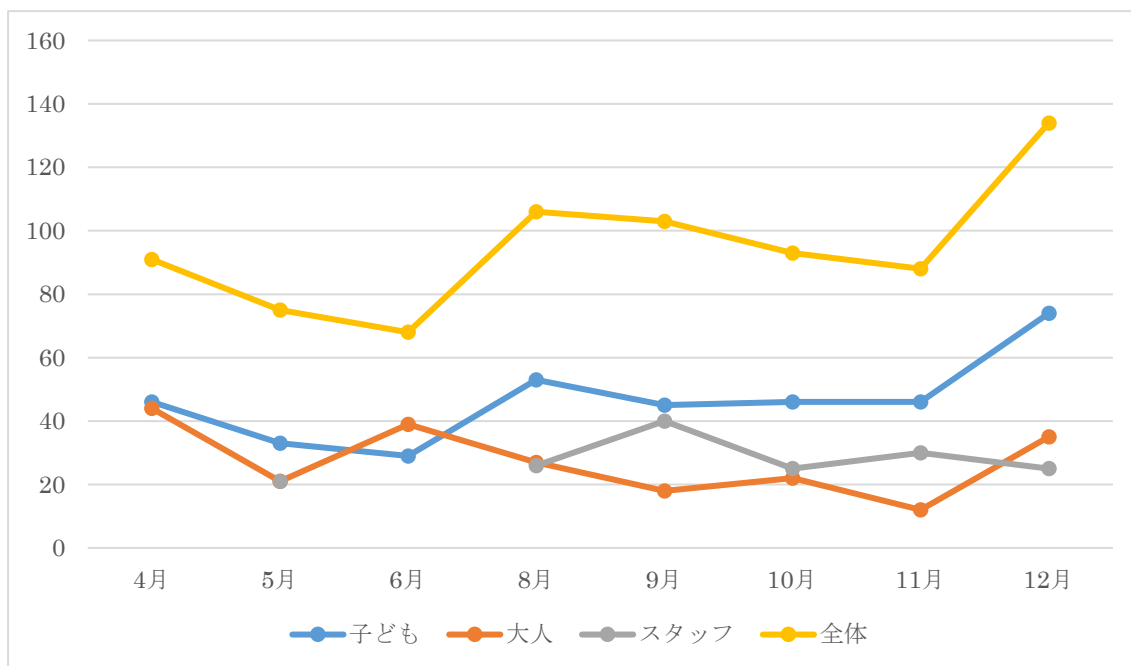


図 1 人数推移グラフ

#### 4.参加者の方が住んでいる地域

山田学区・中小田井学区

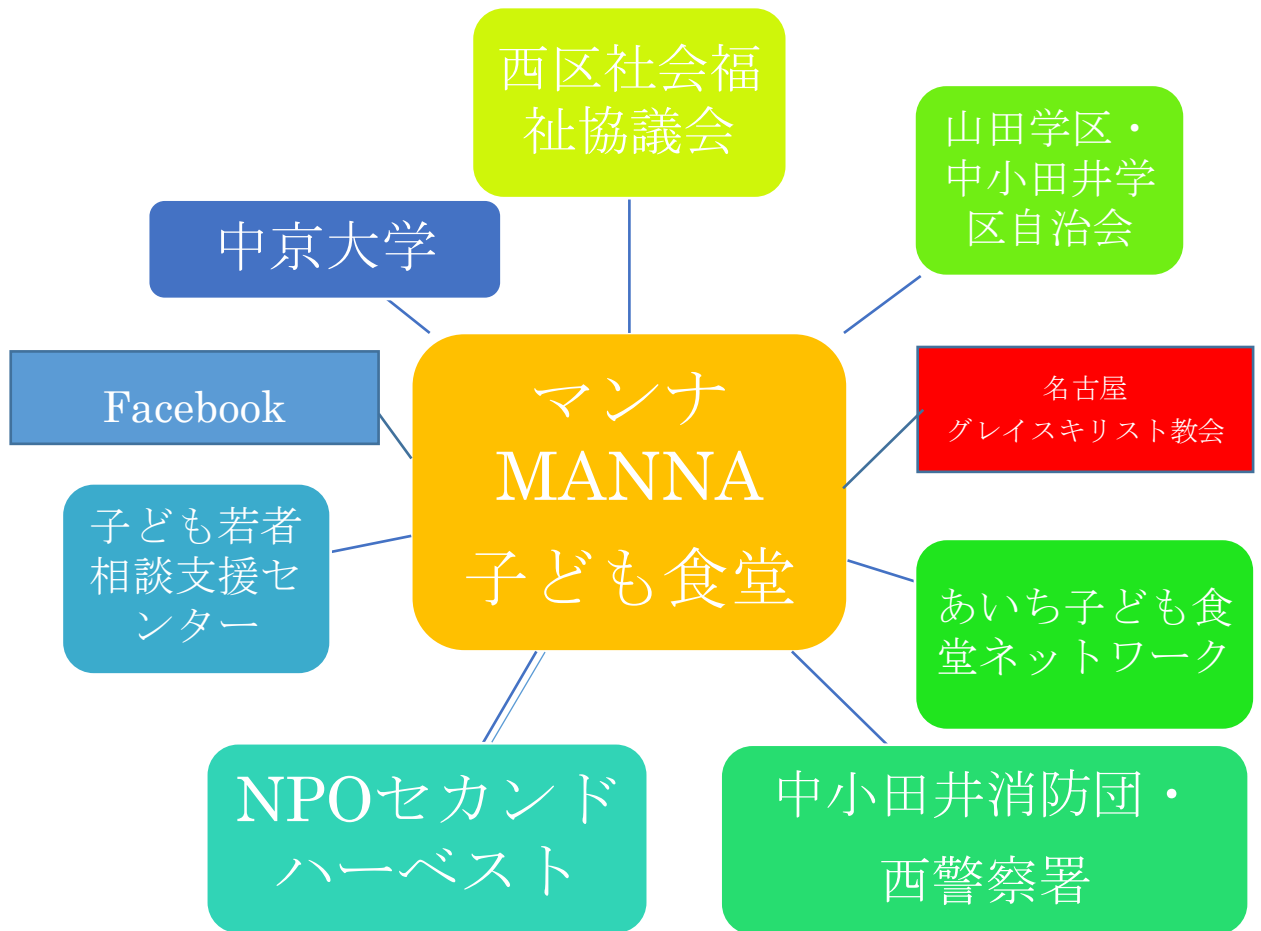
#### 5.課題と取り組み

来る人数が把握しきれない点。

9/20の回に終わりがけに来た親子に食事の提供ができなかったことがあった。マンナ子ども食堂は来てくれた参加者全員に食事を提供したいため、スタッフも非常にその親子に申し訳なさそうだった。

→8月から12月まで平均的に参加者が100名を超えているので最低でも100名分は食事を用意しておくべきなのだろう。Facebookで告知していたりするのでこれからも参加者は増加していくと予想しているため100名分だけでは足りなくなる可能性もでてくる。また、学校の行事や天候も考慮する必要がある。余った食事はスタッフで分けて持って帰っているのでこれから先もそうしていく。他の子ども食堂は安い値段で売って運営資金にあてているみたいなのでこの取り組みをするのも新たな挑戦かもしれない。

## 6. つながりマップ



マンナ子ども食堂は名古屋グレイスキリスト教会が主催・プロジェクトとなって運営している。現在、マンナ子ども食堂は名古屋市子ども青少年局子ども未来課、西区役所区民福祉部民生子ども課、山田支所区民福祉課、山田学区自治会、中小田井学区自治会、山田小学校、中小田井小学校、山田中学校、山田高等学校、中京大学、西保健所生活環境課、西区社会福祉協議会、西警察署生活安全課、セカンドハーベスト等に支援・協力をしてもらっている。開催すると開催状況などの報告を各団体に行っている。

自治会の方たちが子ども食堂に来て子どもたちと一緒に食事している光景もよく見かける。8/23の回では名古屋市長もマンナ子ども食堂に来て子どもたちと一緒に食事をした。毎回新聞記者の人や自治体の人、社会福祉協議会の人などさまざまなジャンルの人達が見学に来るので、つながりが幅広いなといつも感じる。

## 7. つながりの考察

子ども食堂のつながりとして重要視されるのは「物・お金・人」である。それは、この3つのつながりがなければ子ども食堂は開催することができないからである。子ども食堂の規模（参加者数）が大きければ大きいほどこのつながりもより幅広く、太い線でつながっているべきであるだろう。マンナ子ども食堂の3つのつながりを具体的に述べていく。

物（食べ物）のつながりとしてマンナ子ども食堂はフードバンクのセカンドハーベストとのつながりが強い。セカンドハーベストは賞味期限の近い食材やお菓子など提供している。野菜も畑をしている方から提供されている。サツマイモが大量に畑をしている方から提供されたときは多すぎるくらいのスイートポテトが作られた。

次にお金のつながりとして教会の子ども食堂指定献金や寄付金、助成金、参加費があげられる。子ども食堂を開催し始めたときからマンナ子ども食堂は赤字になったことはない。参加費は中学生までが無料、高校生以上が300円である。私は参加するときは受付を担当する。受付の横にある寄付金箱に寄付金を入れていく方を多く見るのでその寄付金も大きな役割を担っている。

最後に人のつながりとしてまず参加者の住んでいる地域の特色をあげる。はじめに山田学区は1955年西区に編入される形で誕生した。この学区は1993年に上小田井総合駅が完成し、さらに大型施設も開店したことにより人口が急激に増加した。大きく発展をとげたと同時に街頭犯罪も増加した。人口は15,147人で世帯は6,739世帯である。（注1）次に中小田井学区は1978年に山田学区より分離独立した西区の中で一番新しい学区である。中小田井は岩倉街道に面する集落であり、1987年には名古屋街並み保存地区に指定された。人口は11,392人で世帯は5,005世帯である。（注2）どちらの学区も大型商業施設の開店と上小田井総合駅の完成により大きく発展をとげた。それに伴い人口も大幅に増加した。また街頭犯罪も多くなり、警察も見回りを強化しているようだ。西区の犯罪発生数は2018年1年間で823件である。マンナ子ども食堂が地域とのつながりや警察とのつながりを持っているのもこのような背景があるからであろう。

次に、このマンナ子ども食堂は他の子ども食堂に比べてつながりが多いように感じられる。このつながりの多さで子どもたちが子ども食堂に来やすいのかどうかの問題である。参加者が少なく、近所の人たちからしか知られていない子ども食堂のほうが子ども食堂を求めている子どもがくるのではないかという指摘があるかもしれない。もちろんその指摘も正しい。しかし、マンナ子ども食堂のように地域とのつながりをしっかり持って、地域の人たちが来やすく紹介しやすい子ども食堂の存在も正解である。いつも参加してくれる子どもが友達をつれて次回の子ども食堂に来てくれることが連鎖のように広がれば子ども食堂というものに貼られているレッテルをはがすいい機会になるかもしれない。「子どもだけで参加させるのは・・・」と思っていたお母さんが「あその子ども食堂なら大人がたくさんいて安心だから行っておいで」と子どもに言うかもしれない。つながりが多いことにデメリットは少ないのではないかと考える。いつでも子どもたちが来ていいように準備をして、地域にしっかりと受け入れてもらったことが形となったのがマンナ子ども食堂だと感じる。

また、マンナ子ども食堂は子ども食堂という形で愛知県内において初めてNPOとなっ

た。これは母体が教会ということもあり、マンナ子ども食堂では宗教色が残っているのではないかという声に「NO!」を言うためでもある。誰でも来てほしいというスタッフの思いが NPO という形になったのだ。

4月からマンナ子ども食堂に参加していて大きく変わったのはやはり人数の増加である。どんどんマンナ子ども食堂を知る人が増え、参加者も増えてきている。たくさんつながりも増えてボランティアも多くなった。ここでもう一度マンナ子ども食堂の将来を考えてみたい。代表の藤田さんは「将来的には子ども食堂というものがなくなってくれたらいい」と以前おっしゃっていた。それはしっかり自分の居場所がひとりひとりにできてほしいという気持ちからである。子ども食堂というものに正解はないし、間違いもない。だから将来について皆手さぐりで進んでいるのだろう。

## 8.子ども食堂のレッテル

例えば、子ども食堂のレッテルとは「貧しい子が来ている」「偽善」「かわいそうな子」「ご飯がおいしくない」「危険がありそう」などマイナスなことがあげられる。マンナ子ども食堂は母体が教会ということもあり子どもたちだけで子ども食堂に行かせることに積極的ではない親御さんたちもいる。それは子どもたちにキリスト教の布教を知らないところでされてしまうのではないかという不安からであろう。ここでマンナ子ども食堂が実践しているレッテルをなくす運動を紹介したい。

まず「ご飯がおいしくない」ということをあげる。マンナ子ども食堂は栄養士さんの健康を考えたメニューが毎回提供されている。私も参加させていただいているときにいただく食事は本当においしい。また、マンナ子ども食堂は見た目では貧しいとわかるような子がいない。実は貧しい子もいるのかもしれないが、見た目ではわからない。

また、子ども食堂内では皆平等に接して、子どもたちは皆で遊ぶという雰囲気があるので一人でご飯を食べている子を見たことがない。スタッフさんが子どもよりも多くいるので子どもの様子がいつも誰かはわかっているという環境なのだ。

そして最もレッテルというものを払拭するには効果がでるであろう NPO にマンナ子ども食堂はなった。それは子どもを子ども食堂に行かせる親に少しでも不安を与えないためである。他の子ども食堂は有志の集まりが開催していたりするのに対し、教会が母体となって開催していることは愛知県内では少数派だ。NPO になったことで地域の方々にも「マンナ子ども食堂は安心ですよ」と自信と根拠をもって言えるのだ。

しかし、子ども食堂という大枠でみるとレッテルというものはテレビ等で取り上げられ払拭された部分はあるが未だにないというわけではない。何事も社会に受け入れられ、社会の一部になるには付きまとう課題のように感じる。レッテルというものは一度貼られるととることは難しい。それでも子ども食堂は子どもたちのために居場所を作りたいという強い信念の元活動を継続していることは子どもたちにとっては救いになっているのかもしれない。

参考引用

(注1) (注2) 名古屋市ホームページ 西区 2018年1月17日

<http://www.city.nagoya.jp/nishi/category/91-3-0-0-0-0-0-0-0.html>